



年が明け人でにぎわう街のなか ～西那須野 花市～

1月11日、西那須野地区の桜通りで恒例の花市が開催されました。所狭しと露店が並んだ通りは、夕方になると平日にもかかわらず多くの家族連れや学生でにぎわいました。

新年の願いや目標を込めながら、片方の目を入れる縁起物のだるま。この日は、有名な「高崎だるま」と「白河だるま」が並んでいました。七転び八起きで新年の目標を達成し、だるまの両目に墨を入れたいものです。



安全・安心な食の供給と商売繁盛を願って ～新春 初競り～

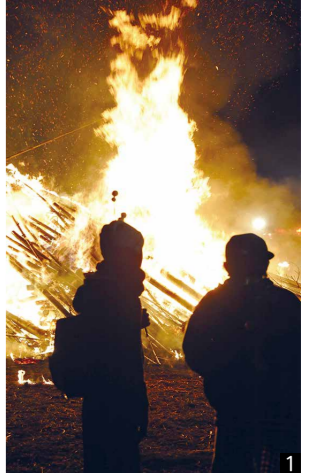
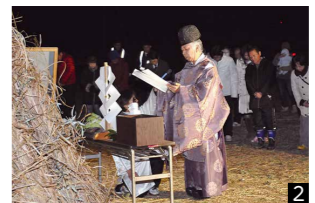
豊浦にある黒磯那須公設地方卸売市場で1月5日朝、新春恒例の初競りが行われ、威勢の良い買受人の掛け声が競り場に響き渡りました。同市場では、全国各地から運ばれた青果・水産物などが並び、年間取扱高は8億円にも上ります。競りに先立ち、組合長である君島市長が「安心・安全な食料の供給基地としての役割を担えるよう、いい年にしましょう」とあいさつ。その後、参加者一同で三本締めし、2017年の商売繁盛を祈りました。



炎に願う 無病息災 ～どんど焼き～

毎年1月は、市内の各地で恒例のどんど焼きの大火を見ることができます。この行事は小正月に行われ、竹や茅などで小屋を作り、中に正月飾りなどを入れてお炊き上げを行うもの。小屋を組むのは大変な時間と人手が必要ですが、燃えて倒れるのは長くて数分。火がつけられ、炎が高く燃え上がると、会場の人たちから歓声が上がりました。炎が落ち着いてくると、持ち寄った繭玉団子を火であぶり、1年の健康を願いながらみんなでおお張っていました。

- 1 炎が落ち着くまではなかなか近づけません。
- 2 厄を払い今年1年の無病息災を祈ります。
- 3 どんど焼きの炎で炙った団子を食べると1年間病気になるかどうか。



あの頃の暮らしに想いを馳せて ～博物館 昭和の暮らし探検隊～

技術は日々進歩し、家の中には当たり前のように物があふれる今日。しかし、時代をさかのぼると、違う当たり前があったことに気づきます。

蠅捕器やほろ蚊帳、手で回す洗濯機など昔使われていた道具を紹介する那須野が原博物館の「昭和の暮らし探検隊(～2月19日)」。1月22日の展示解説に参加した昭和24年生まれという男性は、「全てが懐かしかった。色んなことを思い出した」と、昔の思い出話を色々教えてくださいました。



幻想的な光を家でも楽しんで ～竹取物語 灯籠づくり体験～

塩原温泉街の有志が街中に設置した竹灯籠。毎日夕方になると、幻想的な光が温泉街を包みます。

この度、竹灯籠のミニチュア版の作成を体験できる催しが行われました。参加者は、用意された長さ約35cmの竹に穴を開けていきます。完成までは約30分ほど。温泉街を彩る大型灯籠にはかきませんが、作ったミニ灯籠は思い出たっぷりの一品。市外から親子で参加した女の子は「ベッドのところに飾るの」と、完成品を眺めていました。



安穏無事な一年への祈願と決意 ～黒磯消防団第一分団出初式～

熊本地震や台風10号による東北地方の豪雨、新潟県糸魚川市での大規模火災など、昨年にも多く人命が脅かされ、失われました。それらの災害時にいち早く現場に駆けつけ、地域の安全を守ってくれる消防団。その新年の出初め式が1月3日に黒磯駅前と黒磯神社で行われました。

晴天の冬空の下、制服をまとった消防団員と婦人防火クラブ員のたたずまいからは、新年を迎えての一層の決意と緊張感が感じられました。



厳かな新年の幕開け ～初日の出～

1月1日午前6時58分。西那須野三島地区の上空約100m。この時期としては朝の冷え込みが穏やかで、風も落ち着いており、辺りが静寂に包み込まれる中、とても荘厳な初日の出となりました。

徐々に八溝山系の山並みの奥から姿を見せ始め、見る見るうちにまちを朱色に染める陽光。眺めているだけで、自然と厳かな気持ちになります。

2017年が平和な年となることを期待させる、そんな新年の幕開けでした。